

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
トライデントコンピュータ専門学校	昭和59年3月31日	勝田雅人	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅3-24-15 (電話) 052-561-0581																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人河合塾学園	昭和53年8月1日	河合英樹	〒454-8511 愛知県名古屋千種区今池1-5-31 (電話) 052-735-1608																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
工業	工業専門課程	GAD学科	平成6年文部科学省告示第84号	—																											
学科の目的	機械設計や自動車設計などを中心にコンピュータを利用して設計する技術を学ぶ。ソフトとしては大手企業で使われているCATIAやAutoCADの操作をマスターし、業界就職に直結できるCADスキルの習得を目指す。																														
認定年月日	平成26年3月31日																														
修業年限	昼夜	全授業の場下に必要な 就業時間又は授業単 位	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	1800時間	540時間	1950時間	0時間	0時間	0時間																								
生徒総数	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
70人	39人	0人	1人	1人	2人																										
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成果物、小テストによる総合判定																											
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月22日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月17日～3月31日	卒業・進級条件		進級・卒業は当年次に30単位以上取得して、進級もしくは卒業判定会議で承認されること																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別、あるいは保護者同席での面談	課外活動		■課外活動の種類 産業技術記念館見学																											
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) トヨタ自動車他	演習		■サークル活動: 有																											
	■就職指導内容 キャリアデザイン、就職ガイダンス、企業研究、就職研究、面接指導など ■卒業者数: 22 人 ■就職希望者数: 22 人 ■就職者数: 22 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合: 100 % ■その他			■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																											
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2次元CAD利用技術者2級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD利用技術者1級 機械</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>3次元CAD利用技術者2級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>3次元CAD利用技術者準1級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>MOS Excel2010 エキスパート</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	2次元CAD利用技術者2級	③	22人	22人	2次元CAD利用技術者1級 機械	③	22人	20人	3次元CAD利用技術者2級	③	22人	7人	3次元CAD利用技術者準1級	③	22人	5人	MOS Excel2010 エキスパート	③	1人	1人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
2次元CAD利用技術者2級	③	22人	22人																												
2次元CAD利用技術者1級 機械	③	22人	20人																												
3次元CAD利用技術者2級	③	22人	7人																												
3次元CAD利用技術者準1級	③	22人	5人																												
MOS Excel2010 エキスパート	③	1人	1人																												
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 ■中途退率 2.6 % 平成29年4月1日時点において、在学者39名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者38名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 入学辞退 ■中途退学防止・中途退学支援のための取組 個別面談、保護者会の実施、学費援助制度の導入、臨床心理士カウンセリング																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 トライデント奨学金制度…在学中に学業優秀と認められた学生は進級時に特待生として認定し、面接等の選考試験を行った上5万円から30万円授業料を免除 トライデント同窓会奨学金制度…同意金より、人物、学業成績が優秀で就学上経済的援助が必要な学生に対し、若干名に年間上限10万円給付 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
当該学科のホームページURL	URL: http://computer.trident.ac.jp/																														

(留意事項)

- 公表年月日(※1)  
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください
- 就職等の状況(※2)  
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。  
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の道路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。  
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。  
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めず、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や道
- 主な学修成果(※3)  
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種類区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

常に業界第一線の状況を把握し、最先端の知識や技術を学校として吸収し教育内容に反映していくことはもちろんのこと、学生への教授についても第一線の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施するため、本校で開催する教育課程編成委員会においては、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱を受けた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、教務チームにおいて協議のうえ学科主任に指示し、実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言とその助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 文武	一般社団法人 コンピュータ教育振興協会	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	①
中村 裕	株式会社ロジックソリューションズ	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	③
勝田 雅人	トライデントコンピュータ専門学校 校長 (学校責任者)	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
日比野 誠	専門学校事業本部 キャリアセンター統括室 室長	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
入江 晃司	トライデントコンピュータ専門学校 教務・就職チーム チーフ	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
杉本 昭二	専門学校事業本部 キャリアセンター統括室	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	
恒川 佳子	トライデントコンピュータ専門学校 CAD学科 学科主任	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催 ①8・9月 ②2・3月

(開催日時)

第1回 平成28年8月26日 15:30～17:00

第2回 平成29年3月 1日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

2次元CAD利用技能者2級検定に関して、一般論として以前に比べ筆記で落ちる学生が増えており、合格率が落ちているとの意見を受けて、『資格対策』の授業では、機械製図の基礎について理解度をあげるために、毎回復習テストや詳細解説をおこない、学生の底上げを実施した。結果として合格率100%であった。また、手書き製図があつての3次元製図のご指摘もあり、『図学製図』においては、2次元製図の時間を増やしてから3次元製図を学ばせるカリキュラムに変更をした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携による演習等の科目においては、企業の業務水準を現実的に体感させることを主目的に設定する。疑似体験的な演習講義を通じて、企業で日常使われている技術・知識を体験、習得させる。また、授業を通じて学生たちが生み出した成果物に対する評価においても、学校という教育環境下での評価ではなく、市場を見据えた企業の現実の評価基準での判定を実施していただく。また、こうした演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

CADに関する実践的な授業を行うため、企業から当該企業に所属するCADエンジニアやCADインストラクターを講師として派遣し、校内の実習施設や設備等を活用した指導などの協力を得られる企業を選定している。また、校内実習の実施にあたり、企業等から課題を提示し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導から学修成果の評価を行うなどの体制をとることが可能な企業を選定している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
3Dモデリング入門 (集中)	主に自動車産業、航空機業界などで使用されている3次元CADソフト「CATIA V5」の概要、基本操作を理解、習得し、3次元モデリングをマスターする為の基盤作りを徹底して行う授業である。3Dモデルは製造業界の様々な工程で使用されており、今や無くてはならないものとなっている。その為、設計意図を考慮したモデリングが必須であり、本教科で学ぶ基本操作は重要な基盤となる。まずは形状のもととなるスケッチ(断面)をルールに準じて作成する。	株式会社ロジックソリューションズ
3次元CAD試験対策 (集中)	3次元CAD 利用技術者試験(2級・準1級)に合格するために必要な知識や技能を身に付ける資格対策授業である。3次元CAD利用技術者試験は単に3次元CADシステムのオペレーション技能や作図時間の速さ、正確さを評価するばかりでなく、3次元CADシステムによる設計業務に関連する周辺知識を活用し、実務において最低限のコミュニケーションができる力を評価するためのものである。「図面の読図能力」「周辺知識」「応用力」を養い、3次元CAD利用技術者に必要と思われる知識、技能を習得し、2級・準1級の試験に合格することを目的としている。	株式会社ロジックソリューションズ

<p>3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>																									
<p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。研修等の諸規程に定められている通り、年度当初にチーフと学科主任、各教員で実施する研修についての年間計画を立案し1名あたり2～3回の研修を義務付けている。教員はそれらの研修を通じて各々が専門分野の知識向上に努めている。ただし、個人の努力目標のみではなく、業界第一線の知識・技術の習得については学校として機会を積極的に提供していく。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても年度当初に年間計画を立案し、1回以上の実施を法人全体の課題として取り組んでいく。</p>																									
<p>(2)研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修対象/内容/時期/概要</p> <p>○学科教員/画像を調理する:面白く、役に立ち、ストーリーのある研究開発のすすめ/2016.8/CEDEC講演会(横浜)</p> <p>○学科教員/最新出版物の動向調査/2016.9/Autodesk University Japan(東京)</p> <p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>○全教員/インストラクショナルデザイン研修/2016.8</p>																									
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>研修対象/内容/時期/概要</p> <p>○学科教員/最新出版物の動向調査/2017.6/AUGIjp Workshop Tokyo</p> <p>○学科教員/「若手小規模プロジェクトのススメリ」/2017.8/CEDEC講演会(横浜)</p> <p>○学科教員/MOTOR×ジャパンクラフト/2017.10・11/東京モーターショー</p> <p>②指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>○全教員/就職関連・ハラスメント防止研修/2017.9</p>																									
<p>4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係</p>																									
<p>(1)学校関係者評価の基本方針</p> <p>校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施する。</p>																									
<p>(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)教育理念・目標</td> <td>教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価</td> </tr> <tr> <td>(2)学校運営</td> <td>学校運営の方針、学校組織の運営・意思決定プロセス、組織の活性化、業務の効率化</td> </tr> <tr> <td>(3)教育活動</td> <td>各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム編成、カリキュラムに対する評価体制、各学科のカリキュラム編成方法、IT業界人材ニーズの把握、授業計画・コマシラバス、インターンシップ、授業・科目の編成、専門教育・一般教育の配分や考え方、実習の意義、キャリア教育、教育方法の工夫、授業内容の把握・分析・評価体制、講師の採用基準、現在の講師陣の状況、講師の専門性把握および教育スキル向上、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、退学についての考え方</td> </tr> <tr> <td>(4)学修成果</td> <td>資格取得指導、資格取得状況、卒業生に対する評価、在校生の作品成果・受賞の状況</td> </tr> <tr> <td>(5)学生支援</td> <td>就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導、学生生活相談、奨学金や学費についての支援、学生の健康診断、クラブ活動、卒業生支援(同窓会)</td> </tr> <tr> <td>(6)教育環境</td> <td>学校施設・設備の充実、防災、保健衛生管理</td> </tr> <tr> <td>(7)学生の受入れ募集</td> <td>入学選考の考え方、学生募集活動の考え方</td> </tr> <tr> <td>(8)財務</td> <td>予算・監査</td> </tr> <tr> <td>(9)法令等の遵守</td> <td>法令等の遵守</td> </tr> <tr> <td>(10)社会貢献・地域貢献</td> <td>法令遵守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価及び第三者評価</td> </tr> <tr> <td>(11)国際交流</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※(10)及び(11)については任意記載。</p>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価	(2)学校運営	学校運営の方針、学校組織の運営・意思決定プロセス、組織の活性化、業務の効率化	(3)教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム編成、カリキュラムに対する評価体制、各学科のカリキュラム編成方法、IT業界人材ニーズの把握、授業計画・コマシラバス、インターンシップ、授業・科目の編成、専門教育・一般教育の配分や考え方、実習の意義、キャリア教育、教育方法の工夫、授業内容の把握・分析・評価体制、講師の採用基準、現在の講師陣の状況、講師の専門性把握および教育スキル向上、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、退学についての考え方	(4)学修成果	資格取得指導、資格取得状況、卒業生に対する評価、在校生の作品成果・受賞の状況	(5)学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導、学生生活相談、奨学金や学費についての支援、学生の健康診断、クラブ活動、卒業生支援(同窓会)	(6)教育環境	学校施設・設備の充実、防災、保健衛生管理	(7)学生の受入れ募集	入学選考の考え方、学生募集活動の考え方	(8)財務	予算・監査	(9)法令等の遵守	法令等の遵守	(10)社会貢献・地域貢献	法令遵守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価及び第三者評価	(11)国際交流	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1)教育理念・目標	教育理念・教育目的、教育目標、教育目標の周知、独自性の高い教育内容・手法、教育手法に対する各方面からの評価																								
(2)学校運営	学校運営の方針、学校組織の運営・意思決定プロセス、組織の活性化、業務の効率化																								
(3)教育活動	各学科の概要と学修目標、教育目標とカリキュラム編成、カリキュラムに対する評価体制、各学科のカリキュラム編成方法、IT業界人材ニーズの把握、授業計画・コマシラバス、インターンシップ、授業・科目の編成、専門教育・一般教育の配分や考え方、実習の意義、キャリア教育、教育方法の工夫、授業内容の把握・分析・評価体制、講師の採用基準、現在の講師陣の状況、講師の専門性把握および教育スキル向上、成績評価・単位認定の考え方、資格取得、退学についての考え方																								
(4)学修成果	資格取得指導、資格取得状況、卒業生に対する評価、在校生の作品成果・受賞の状況																								
(5)学生支援	就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導、学生生活相談、奨学金や学費についての支援、学生の健康診断、クラブ活動、卒業生支援(同窓会)																								
(6)教育環境	学校施設・設備の充実、防災、保健衛生管理																								
(7)学生の受入れ募集	入学選考の考え方、学生募集活動の考え方																								
(8)財務	予算・監査																								
(9)法令等の遵守	法令等の遵守																								
(10)社会貢献・地域貢献	法令遵守の方針、個人情報保護の方針、学校自己点検・自己評価及び第三者評価																								
(11)国際交流																									
<p>(3)学校関係者評価結果の活用状況</p> <p>高等学校との連携や国際交流について具体的施策をアピールしていく必要性が求められるとの意見を受け、下記の取り組みを行うとともに、学校のホームページやリーフレットなどを作成し、情報を開示した。</p> <p>○高校生を本校に招き、各学科の模擬授業や学ぶべきカリキュラム、将来の仕事などの説明等をおこなった。</p> <p>○海外の提携校との交換留学を実施した。</p> <p>○交換留學生に対し、日本文化やフィールドトリップ、日本語授業などを実施した。また、在校生との交流の場として、交流会の場を与え、学生同士の交流を促進した。</p>																									

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 貴宏	株式会社ハ・ン・ド	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等委員
大森 修史	株式会社フロム・ソフトウェア	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等委員
山本 一憲	株式会社アテナシステムズ	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	企業等委員
篠原 たかこ	公益財団法人画像情報教育振興協会	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	業界・職能団体
高野 正義	NPO法人キャリアアップセンター	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	業界・職能団体
見田 智之	愛知県春日井商業高等学校	平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年)	高校教諭

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページで公表(毎年7月末日に)

URL: <http://computer.trident.ac.jp/>

## 5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

## (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

広報的作成物だけではなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

## (2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・教育目的、教育目標、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生
(2) 各学科等の教育	各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、資格取得・検定試験合格等の実績、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員組織図
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習の意義、キャリア教育、就職指導の全体方針、就職指導体制、就職指導管理・就職実績、具体的就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学生生活相談
(7) 学生納付金・修学支援	学費、学費援助制度
(8) 学校の財務	河合塾学園事業報告
(9) 学校評価	自己点検・自己評価報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3) 情報提供方法

URL: <http://computer.trident.ac.jp/> ホームページで毎年7月末日に公表

授業科目等の概要

(工業専門課程CAD学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			社会人基礎力	1. 社会人としての適切なマナーや考え方を理解し、実際に取得する事で、社会に最適化できる人材として成長してもらう。 2. エンジニアが社会で活躍する為に持つべき正しい思考や行動の仕方を伝え、身に付けてもらう。 3. 自身の将来のロードマップの形成やキャリアパスの描き方の方法を知り、長きに渡り社会で活躍できる人材に成長する方法を理解してもらう。 4. 「チームワーク」「工程管理」「コミュニケーション力」「創造性」を身につけるためにワークショップを中心に行う。	1前	90	3	○	△		○		○	○	
○			一般常識	・就職試験に合格できる基礎学力をつける。 ・社会人として世の中の出来事に目を向けられるように時事問題にも関心をもつようにする。	1通	60	2	○			○			○	
○			一般教養	就職試験(筆記・SPI)合格に向けての筆記試験対策。筆記試験対策として国語・数学・社会・英語を中心に基礎学力を養成する。	2前	30	1	○			○			○	
○			基礎数学	1学期前半は、CAD検定を念頭に置き、図形問題・関数などを中心に学ぶ。後半は、四則計算～方程式など就職試験向けの内容とする。同時に、SPI対策も行う。	1通	60	2	○	△		○			○	
○			パソコン活用	「ワープロソフト」「表計算ソフト」の操作を習得し、基礎的な「プレゼンテーションソフト」「データベースソフト」も習得する。また、CAD利用技術者試験2級の試験範囲にある「パソコン知識」の座学も行い、実務に必要なパソコンのスキルを得ることを目標とする。	1前	60	2	△	○		○			○	
○			プレゼンテーション演習	プレゼンテーションに必要な基礎的な知識を習得し、総合的スキルアップを目指す。パワーポイントを使用しての上手な発表方法を学ぶ。	1前	30	1		○		○			○	

○		キャリアデザイン	就職実践力（自己分析・業界研究・職種研究・わかりやすい話し方・マナーなど）をつける。将来を想像して、就職に対するモチベーション付けをする。社会人基礎力（チームで働く重要性・会社の中での個人のあり方）をつける。	1後	30	1	○	△	○									
○		企業研究	就職活動する業界・業種・職種を絞り込めるまでの企業研究を行う。さらに、就職活動に必要なマナーの定着および履歴書添削も行う。	1後	30	1	○		○									
○		就職研究	個々の学生の就職活動の状況を把握し、効果的に就活を進めるための総合的サポートをおこなう。	2通	60	2	○		○									
○		図学製図	1. 平面画法、立体画法及び投影図(特に現在の企業が用いている図面について)の種類と描き方・表し方を理解する。 2. 製図に必要な関連規格(特に幾何特性仕様等について)と機械要素全体の描き方・表し方を理解する。企業環境の実態に沿った、機械製図実習を重点に学習し、理解を図る。	1通	210	7			○		○							
○		CAD基礎	3次元CADシステムを使いこなすための知識や機能を理解する。 CADソフトは汎用のAutoCADを使用し、3次元図面を作成できるまでのスキルを学習する。 特に、曲面や傾斜面の形状理解を深める。	1通	180	6	△		○		○							
○		資格対策	CAD利用技術者試験2級対策、公式ガイドブックを基に、実技対策「CAD作図操作」と筆記対策「機械製図の基礎」の解説を行う。 CAD利用技術者試験1級【機械】受験対策、公式ガイドブックも基に、実技対策「CAD作図操作」と筆記対策「機械製図の基礎」の解説を行う。	1通	60	2	○	△		○			○					
○		機械工学	「機械」に関する用語を幅広く習得し、「機械工学」の基礎知識を学ぶ。主に機械材料・機械工作・流体力学・熱力学について取扱い、そして設計計算の基礎が理解できるようにする。演習として「機械設計」「機械製図」の基礎の一つである「機械製作法」の知識の習得をする。設計・製図の技術力アップを図る為に、出来るだけ「機械工作法」と設計・製図との関係を習得する。実際の製作現場の状況、雰囲気を感じる情報の習得をする。各学科、その関連分野の知識に関し、特に基礎知識をしっかり習得する。「CAD利用技術者試験1級」のうち、機械工作法分野の受験対策を行う。	1通・2通	180	6	△		○		○							



○		3Dモデリング	CATIA V5 R18 の基本操作を学習する。パートデザインワークベンチのその他の機能を習得する。ジェネレーティブシェイプデザインワークベンチにおけるワイヤフレームモデル、サーフェスモデルの作成を行う。モデリングにあたっての、サーフェスの利用方法及び、サーフェスを利用したソリッドの作成やアセンブリーデザインワークベンチの基本機能の理解と操作方法の習得を行う。	1前・2通	270	9	△	○	○	○	○		
○		3Dモデリング入門(集中)	主に自動車産業、航空機業界などで使用されている3次元CADソフト「CATIA V5」の概要、基本操作を理解、習得し、3次元モデリングをマスターする為の基盤作りを徹底して行う授業である。3Dモデルは製造業界の様々な工程で使用されており、今や無くてはならないものとなっている。その為、設計意図を考慮したモデリングが必須であり、本教科で学ぶ基本操作は重要な基盤となる。まずは形状のもととなるスケッチ(断面)をルールに準じて作成する。	2前	30	1	△	○	○	○	○		
○		CAD試験対策(集中)	CAD利用技術者試験1級【機械】とは、CADシステムのエペレーション技能や作図時間の速さ、正確さばかりではなく、機械設計業務に関連する基本事項と周辺機器を活用し、実務において最低限のコミュニケーションが出来る能力を評価する試験。CADシステムの正確なエペレーションはもちろんのこと、図面の読図能力、周辺知識やその応用力を学習する。	1後	60	2	△	○	○	○			
○		3次元CAD試験対策(集中)	3次元CAD利用技術者試験(2級・準1級)に合格するために必要な知識や技能を身に付ける資格対策授業である。3次元CAD利用技術者試験は単に3次元CADシステムのエペレーション技能や作図時間の速さ、正確さを評価するばかりでなく、3次元CADシステムによる設計業務に関連する周辺知識を活用し、実務において最低限のコミュニケーションができる力を評価するためのものである。「図面の読図能力」「周辺知識」「応用力」を養い、3次元CAD利用技術者に必要と思われる知識、技能を習得し、2級・準1級の試験に合格することを目的としている。	2後	60	2	△	○	○	○	○		
○		工作技術	1. 機械製作の各種工作法の知識習得 2. 機械設計と工作法との関係知識の習得 3. 工作法に関する物理・力学・機械材料等の知識の習得 4. Webによる実生産業界の実態の紹介	2前	30	1	○	△	○	○	○		



○	CAD技法	CAD利用技術者試験1級【機械】対策（筆記試験・実技試験）を行う。1年次に習得したCADオペレーションの応用ととらえ、より実務に沿った内容の図面を作成する。	2 前	30	1	○	○	○	○
合計		25科目	1980単位時間(66単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
当年次に30単位以上取得して、卒業判定会議で承認されること		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。